

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 17 日現在

機関番号：32704

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009 ～ 2012

課題番号：21310170

研究課題名（和文） 米軍の性売買政策と性暴力ーその歴史ならびに現状の実証的研究

研究課題名（英文） The sexual trade and Sexual Violence of the US Military

研究代表者

林 博史（HAYASHI HIROFUMI）

関東学院大学・経済学部・教授

研究者番号：80180975

研究成果の概要（和文）：アメリカやイギリスなどで多くの米軍関係資料を収集するとともに、基地問題に取り組んでいる諸団体の聞き取りや資料収集をおこなうことができた。また日本国内や韓国など共同で基地の現地調査も実施し、韓国の研究者や、日本国内で基地を抱えている地域の地元研究者などとのネットワーク作りも進めることができた。共同研究者がそれぞれ多くの研究成果を発表し、米軍による性暴力ならびに性売買の歴史と現状について新たな研究を付け加えることができた。

研究成果の概要（英文）：While we have made a collection of US military documents in the US and the UK relating to sexual trade and sexual violence of the US military, we interviewed staff of NGOs who work on base issues. In addition, we conducted field studies and workshops with researchers and activists in Korea and within Japan and made networks with them. Member of our research group published many fruits of research. We can say we added new works to research on history and current condition of sexual violence and sexual trade of the US military.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|---------|------------|-----------|------------|
| 2009 年度 | 4,200,000 | 1,260,000 | 5,460,000 |
| 2010 年度 | 4,000,000 | 1,200,000 | 5,200,000 |
| 2011 年度 | 2,700,000 | 810,000 | 3,510,000 |
| 2012 年度 | 1,200,000 | 360,000 | 1,560,000 |
| 年度 | | | |
| 総計 | 12,100,000 | 3,630,000 | 15,730,000 |

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：ジェンダー

キーワード：性暴力・売買春・性売買・軍隊・米軍

1. 研究開始当初の背景

米軍は世界各地に基地をおいて多数の米軍将兵を駐留させているだけでなく、港に寄航したり、軍事演習のために一時的に滞在している。第二次大戦後を見ると、すでに米軍基地がなくなった所も含めると、日本、沖縄（戦後長い間、米軍政が続き、今日において

も日本本土とは様相が異なるので、ここでは本土とは独立した地域として取り上げる）、韓国、フィリピン、タイ、ベトナムなど東アジア・東南アジアでは米軍の存在は特に大きな影響を持っていた。

第二次大戦中あるいはその直後に進駐してきた米軍の将兵による性売買は、長い間、

東アジア各地の社会に深刻な影響を与えてきた。韓国などでは依然として重大な問題であり続けている。また性売買とは少し性格が異なるが、米軍将兵による地元女性に対する性暴力はしばしば大きな社会問題となっている。

米軍による性売買や性暴力問題は、近年、米軍基地を抱えている世界各地の実態が、地元の被害者への支援団体の活動を通じて明らかにされつつあり、世界的な米軍基地に反対するネットワークが生れたことにより、世界各地の情報がようやく集められるようになってきている。

さらに近年では、米軍に女性兵士が増加したことやドメスティック・バイオレンス、セクシャルハラスメントなどの視点が社会的に認められるようになってきたこともあり、米軍内部における性暴力問題が深刻な問題として認識されるようになってきている。近年、米国防総省においても米軍内部のそうした問題は重大な問題として認識され、その実態の調査とそれに基づく対策がとられるようになってきた。しかし被害者を支援している団体、医療関係者からはその不十分さが指摘され、その調査や研究も生れてきている。

こうした米軍の性売買、性暴力については、被害者を支援する団体や基地問題に取り組む団体などによって、これまでも繰り返し問題として取り上げられ、しばしばマスメディアにおいても大きく取り上げられてきた。しかしながら、研究上、この問題は必ずしも十分に位置づけて取り上げられてこなかったきらいがある。近年、いくつかの研究成果が生れつつあるが、米軍自体の資料に基づいた実証的な研究はきわめて少ない。また東アジア各地、さらには世界各地の運動団体のなかで蓄積されてきた資料・情報の収集分析もきわめて不十分である。

2. 研究の目的

被害者側の資料とともに米軍内部の資料に基づいて、その実態の解明と、米軍の政策を解明・分析することはきわめて重要である。本研究は、そうした米軍資料を本格的に収集し、日本で広く紹介しようとするものである。アメリカにおいても、こうした研究はいくらかあるが、主に発表されている報告書などを利用したものが中心で、米国立公文書館で所蔵公開されている軍内部の資料を丁寧に収集し分析した研究はほとんどない。日本においてもこうした研究はほとんどなく、本研究は、世界的に見ても先駆的な研究となると思われる。

米軍の資料だけでなく、地元側の資料とあわせて分析する必要があることは言うまでもない。そうした調査研究は日本ではある程度蓄積されており、そうした成果とあわせて

分析される必要がある。また世界各地で米軍基地を抱えている地域で、性売買・性暴力被害者を支援する団体の取組みもおこなわれているが、そうした諸団体の資料を収集する必要がある。米軍側の資料と被害者側の資料を付き合わせることによって、実証的な分析が可能になるだろう。日本での資料だけでなく、韓国やその他の諸地域の資料が入手可能な条件が生れており、それらの資料収集も本研究の目的の一つである。そのなかでも韓国においては近年、在韓米軍の性暴力・性売買についての研究がようやく始められるようになっており、それらの韓国の研究者と合同で研究会をおこない、資料情報を交換するとともに意見を交換する場を持ちたい。

また米軍内部における性暴力についても、米軍自身による調査や、その被害者を支援する団体や精神医学者・心理学者らによる調査が米国内ではかなりなされておられ、その調査研究の成果が蓄積されている。そのなかのいくらかはウェブ上でも公開されているがきわめて限られているので、関係者への直接のインタビューと資料収集が必要である。

以上のように、研究期間内に実現することとして、駐留している米軍将兵による性売買、米軍将兵による地元女性に対する性暴力、米軍内部における性暴力の三点についての基本的な資料を収集することを第一の目的とする。そのうえで第二に、その資料に基づいた分析をおこない、その研究成果を発表することとする。

3. 研究の方法

(1) アメリカでの資料調査

米国立公文書館、議会図書館などで米軍資料（性暴力、性売買に関わる資料）の収集をおこなった。またアメリカのNGOや研究者から、米軍内部における女性兵士への性暴力とそのケアの取組み、米軍兵士の戦争神経症など精神へのダメージの実態と対策、についての資料も収集した。

(2) 日本本土、沖縄、韓国の米軍基地ならびにその周辺地域の実態調査をおこなった。

性暴力被害者や性売買女性のケアをおこなっている諸団体、その他基地問題に取り組む市民たち、特に女性たちの取組みの調査をおこなった。また東アジアにとどまらず世界各地でジェンダーの視点から基地問題に取り組む運動の資料を収集した。

(3) 米軍と性暴力・性売買に関する研究史整理と批判をおこない、収集した資料や現地調査に基づく研究成果を発表した。

(4) 韓国において研究者や市民団体との合同研究会を開催するとともに共同で現地調査を実施した。これを通じて、本課題に関する研究者や市民団体とのネットワークを広げることができた。

4. 研究成果

(1) 海外での調査研究活動については、アメリカ国立公文書館（Archives IIならびにサンブルーノ分館）、議会図書館、ニューヨーク市立図書館、ニューヨークの女性平和NGO その他において日本や韓国などの米軍関係資料、議会報告、雑誌記事などを収集した。

アメリカ国立公文書館では、関連する軍資料を多数撮影して持ち帰ることができた。沖縄や日本本土における資料をはじめ世界各地における性売買・性暴力と米軍との関係に関わる資料を多数入手できた。

ニューヨーク市立図書館では、第一次世界大戦期における米軍訓練基地周辺での売春取り締まりや、戦後のアメリカ海軍兵士についての関連史料を調査した。「軍事主義を許さない国際女性ネットワーク」の参加している、米軍基地問題に取り組んでいる各国のNGOの資料を収集し、米軍側の資料からは得られない情報を得ることができた。

プエルトリコの米軍基地に関する調査もおこない、跡地利用や基地問題についての教育プログラムなどについても調査をおこなった。

イギリスにおいても国立公文書館において、英植民地に展開された米軍基地に関する資料を収集することができ、米軍基地が抱える問題を多角的に考えることのできる資料を得ることができた。

(2) 日本国内では、沖縄、岩国、呉、北九州（小倉）、富士吉田、福生・立川、熱海、酒田、新潟などの米軍基地関係の資料収集をおこない、国内の米軍基地を抱えている地域での新聞資料や行政文書なども引き続き収集し、聞き取り調査もおこなった。

特に岩国では韓国の研究者も含めて合同で調査をおこない、日韓の研究状況を交流することができた。

韓国については、関連する研究者と情報交換を進め、またこの問題に関わるNGOとの連絡を取り、韓国米軍基地の現地調査をおこなうとともに、ソウルで日韓合同の研究会をおこない、交流できたことは大きな成果である。韓国における実態や研究状況も理解でき、日本との比較研究が可能な条件ができた。

(3) 研究課題に関する研究状況の整理や、収集した資料の交換と分析など研究会をおこない、日本・韓国ならびにアメリカにおける研究状況を把握分析して共通の認識とした。

以上の4年間の調査研究活動を通じて、多くの資料を収集することができ、また各地の研究者や市民団体とも連絡がとれ、さらなる

研究のためのステップとすることができた。まだ十分に収集した資料を活用しきれていないので、今後、それぞれが研究成果を出して社会に還元していきたい。

一方、多数の史料を収集したが、まだ分析しきれていない史料も多く、今後、これらの史料を活用して研究成果を多数発表していくことが今後の課題である。また研究者のネットワークも作ることができたので、この関係を活用して、新たな研究プロジェクトを検討したい。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計30件）

① 藤目 ゆき 「現代の軍事的性暴力と『慰安婦』問題」『アジア現代女性史』8号、2013年、120-130頁（査読なし）

② 林 博史 「米軍資料に見る米軍の性売買政策と性暴力」『季刊戦争責任研究』77号、2012年、31-37頁（査読なし）

③ 秋林こずえ 「ジェンダー視点からの基地撤廃グローバル・ネットワーク」『季刊戦争責任研究』77号、2012年、23-30頁（査読なし）

④ 平井 和子 「語られない女性たちの占領体験を歴史化する試み」『日本オーラル・ヒストリー研究』8巻、2012年、79-84頁（査読有）

⑤ 藤目 ゆき 「エンパワーメントを希求する女性たち—人身売買「被害者／犯罪者」という二項対立を超えて」中村安秀・河森正人編『グローバル人間学の世界』大阪大学出版会、2011年、52-69頁（査読なし）

⑥ 林 博史 「米軍基地と植民地主義」『季刊戦争責任研究』70号、2010年、6-16頁（査読なし）

⑦ 藤目 ゆき 「広島県・山口県における占領軍被害」『アジア現代女性史』6号、2010年、32-51頁（査読なし）

⑧ Akibayashi, Kozue & Takazato, Suzuyo, “Gendered Insecurity under Long-term Military Presence: The Case of Okinawa” in Reardon, B. & Hans, A. eds. (2010). *Gender Imperative: Human Security vs. State Security* (Routledge, 2010). 38-60頁（査読なし）

⑨ 林 博史 「日本軍「慰安婦」制度と米軍の性暴力」林博史ほか編著『暴力とジェンダー』白澤社、2009年、185-235頁（査読なし）

⑩ 藤目 ゆき 「朝鮮戦争・女性・平和運動」『戦後日本スタディーズ①40・50年代』紀伊國屋書店、2009年、171-186頁（査読なし）

⑪ 兼子 歩 「アメリカ史の中のジェンダーと暴力」『ジェンダー史叢書5 暴力と戦争』

明石書店、2009年、58-75頁（査読なし）

〔学会発表〕（計11件）

①Akibayashi Kozue, “Peace in East Asia from a Gender Perspective,” International Peace Research Association, 2012年11月24日、三重県男女共同参画センター

②林 博史「米軍資料にみる米軍の性売買政策と性暴力」日韓合同シンポジウム「東アジア米軍基地問題と女性の人権」2011年12月16日、東北アジア歴史財団（韓国ソウル市）

③藤目 ゆき「日本における米軍の性売買・性暴力—岩国基地を中心に—」日韓合同シンポジウム「東アジア米軍基地問題と女性の人権」2011年12月16日、東北アジア歴史財団（韓国ソウル市）

④秋林 こずえ「ジェンダー視点からの基地撤廃グローバル・ネットワーク」日韓合同シンポジウム「東アジア米軍基地問題と女性の人権」2011年12月16日、東北アジア歴史財団（韓国ソウル市）

⑤兼子 歩「セクシュアリティが《人種》をつくる——ニューヨーク市「十四人委員会」潜入調査報告書より」九州歴史科学評議会・2011年2月例会、2011年2月26日、西南学院大学（福岡市）

⑥Akibayashi, Kozue, “Toward Peace in Northeast Asia: Japan,” Northeast Women’s Peace Conference, 2009年10月8日、ジョージ・ワシントン大学（米国）

〔図書〕（計7件）

①藤目 ゆき／梁東淑訳『히로시마만의 군사화와 성폭력: 여성사에서 본 이와쿠니 미군사기지(広島湾の軍事化と性暴力—女性史からみた岩国米軍基地)』ノンヒョン出版、2013年、256頁。

②林 博史『米軍基地の歴史—世界ネットワークの形成と展開』吉川弘文館、2012年、202頁。

③藤目 ゆき『女性史からみた岩国米軍基地—広島湾の軍事化と性暴力』ひろしま女性学研究所、2010年、226頁。

6. 研究組織

(1)研究代表者

林 博史 (HAYASHI HIROFUMI)

関東学院大学・経済学部・教授

研究者番号：80180975

(2)研究分担者

藤目 ゆき (FUJIME YUKI)

大阪大学・大学院人間科学研究科・准教授

研究者番号：60222410

秋林 こずえ (AKIBAYASHI KOZUE)

立命館大学・国際関係学部・准教授

研究者番号：90377010

(3)連携研究者

兼子 歩 (KANEKO AYUMU)

長野県立短期大学・助教

研究者番号：80464692

(4)研究協力者

平井 和子 (HIRAI KAZUKO)

研究者番号：なし